

ゴー！ 医見 vol.186 新薬は万能にあらず

インフルエンザの新薬の製造が認可された、というニュースがありました。タミフルは1日2回、5日間の服用が必要ですが、新薬は1回服用するだけでよい、というものです。治療の選択肢が増えるのはいいことですが、流行拡大を防ぐ効果が期待できる、という報道は間違いだと思います。

インフルエンザはいつ感染するのか？

インフルエンザと診断すると学校からは意見書、会社からは診断書の提出を求められます。中には診断書に加えて治癒証明書の提出を求める変な会社もあります。発症後5日間かつ解熱後2日間は感染しやすいので、症状が改善した後も注意が必要です。しかし、一方では熱があるのに無理して学校や会社に行っている人も後を絶ちません。診断書に関しては厳しいことを要求するくせに、インフルエンザと診断される前はかなり緩い労務管理をしている、というのは医者から見ると滑稽です。ちょっとでも怪しければ会社を休む、ということを徹底しなければ感染拡大を防ぐことはできません。

異例のスピード認可

報道によると、製薬会社が厚労省にインフルエンザの新薬の申請を出したのは今年の10月。それが4か月余りで認可が下りると言うのは異例の早さだそうです。そんなに早くて本当に大丈夫なののでしょうか。毎日1時間残業すると1週間では2時間になる、とか1日の残業時間が15時間、なんてデータを平気で出してくるお役所ですよ、厚労省は。こんなデタラメを鵜呑みにして答弁してしまう安倍総理、大丈夫ですかね。

多分、戦闘機もミサイルシステムも大した吟味もせずにアメリカの言い値で買ってしまうのでしょうか。国会答弁でもまともに質問に答えず、人の命がかかった裁量労働制法案の審議の際にはへらへら笑う。頭が悪いのは周知の通りですが、それ以上に心がすこぶる悪い。こんな人がお友達とグルになって「悪だくみ」ばかりして、日本を窮地に陥らせている。最大の国難は「心も悪い」人が総理大臣であることです。

新薬の話に戻ります。たとえ1回の服用で治療が終わっても、症状が早く治まるという確証も、感染危険期間が短くなる、という確証もありません。そんなものは実際に使ってみなければ分かりません。それなのに、感染拡大の抑制効果も期待できる、という報道はいただけません。インフルエンザが流行するのは従来の薬が効かないからではなく、インフルエンザにかかっている可能性が極めて濃厚な状態なのに学校や会社に出かける人が多いからなのです。医療の問題というより国民教育の問題です。マスコミにはそのあたりをもう少し掘り下げて報道してもらいたいと思います。

最後にNHK批判

インフルエンザに限らず、今のマスコミの報道は本当に薄っぺらです。NHKなら安心、というのも大きな誤解です。安倍政権、アメリカべったりと言う点ではNHKが最右翼、悪だくみの一味です。騙されないように用心してください。

つばさクリニック院長 石川 亨